

## やさしい病害虫講座 21

### 「ツツジの病害虫-1」

木村 裕

お庭に植えられている身近な植木類の一番手としてツツジの病害虫を紹介します。病害虫ごとに写真を載せますので、とくに興味のある方はホームページからカラー版をダウンロードしてください。

**【褐斑病】** 秋～春の寒い頃に葉っぱに黒褐色の斑紋が目につきます。よく見ると5ミリ位の大きさに四角い斑紋が多いようです。ヒラドツツジでの発生が多く、時には株全体の葉っぱに発生することもあります。しかし、春になって花が咲く頃には落下しますので気に留めていない方がほとんどです。しかしそのまま放置しておくと年々被害が増えてきますので、落下した被害葉は集めて処分し、発生源を減らしましょう。



**【もち病】** 春になると新しい葉がづぎづぎに開きますが、その中に葉が火膨れしたように厚くなって変形することがあります。赤みがかかったものや黄色みがかかったものなど、ところどころ発生する程度で全部の葉が変形することはありません。見つけしだい手で摘み取る程度でよいでしょう。



**【マイマイガ】** 5月の連休頃から発生する黒い毛虫で、背中に黄色の斑紋をもった綺麗な？虫です。葉をぼりぼりと齧ります。小さい頃は食べる量も少ないので実害はありませんが、大きくなると食べる量も半端ではなく、うっかりすると株全体が丸坊主にされることがあります。見つけしだいピンセットか割り箸で捕らえて処分してください。毛虫の毒はそれほど強くはありませんが、虫を触った手で首筋など皮膚の弱い部分に触れると、赤く腫れて痒くなりますので注意してください。



**【ルリチュウレンジ】** 5月の連休頃から発生するアオムシです。いつも体を丸めるようにして葉をポリポリ齧ります。何処のお庭でもよく発生します。成虫は青色のハチで、幼虫が葉を食べるのでハバチというグループのハチです。お尻には針を持っていませんので、つまんでも刺されることはありません。その代わりに平たいノコギリのような物を持っていて、ツツジの葉を薄く切り裂いてその中に卵を産みこみます。

幼虫は見つけしだい、手で捕まえましょう。

